

産地活性化総合対策事業（国産花きイノベーション推進事業）に関する事業評価票

都道府県名	事業実施主体名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時)	目標年 令和2年	目標値	達成度合			
青森県	青森県花のくにつくり推進協議会	27～29年度	青森県花き産出額の増加	1,917百万円 (H27年)	1,153百万円	3,000百万円	38%	・日持ち性向上に向けた実証 ・花文化の展示（フラワーアレンジメント等）による消費拡大PR ・花育・園芸体験	・日持ち性向上に向けた前処理方法の実証 ・大型アレンジメントの展示等 ・花育・園芸体験(花壇植付体験、フラワーアレンジメント体験)	収穫後の日持ち性向上に向けた栽培管理マニュアルの作成により品質向上を図り、需要拡大の取組として県産花きのPRを目的としたフラワーアレンジメントの展示や花育体験を通じて体験者の花き購入意欲の向上につながったものの、生産者の高齢化や家族労働力不足、野菜への作付転換等により、作付面積が減少したことで、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27年度	JA八戸花き部会のカンパニュラの販売額の増加	19,600千円 (H25年)	15,363千円	27,250千円	56%	・物流の効率化の検討・実証	・縦箱湿式輸送の試験 ・作型検討	縦箱湿式輸送により物流の効率化を目指したが、当初目的のほかに副次的な効果として日持ち性の向上の効果により良品との認識が市場関係者に定着したが、H27年からH29年までは目標値を達成したものの、単価の低迷や生産者数が減少し、H31年、R2年の成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		28年度	JA全農あおもりの花束加工用花きの販売額の増加	0 (H26年)	0	3百万円	0%	・広域連携による花き加工流通の実証	・花束加工用花きの規格の検討	花束加工用花きの花材選定等を検討したが、現状では、広域連携して加工するための作業労力やコスト面から取組に至っていないため、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27～29年度	一世帯当たりの花き購入金額の増加増加	13,010円 (H28年)	13,013円	14,000円	93%	・花文化の展示（フラワーアレンジメント等）による消費拡大PR ・花育・園芸体験	・大型アレンジメントの展示等 ・花育・園芸体験(花壇植付体験、フラワーアレンジメント体験)	アレンジメント教室等の体験は花に触れ合う機会を設けることになり、消費者の花き購入意欲向上につながったが、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27～29年度	学校、福祉施設での花育体験回数 32回	32回 (H29年)	19回	32回	59%	・需要拡大を図るため、フラワーアレンジメント体験等	・花育体験(19回)	新型コロナウイルス感染拡大の影響により当初計画よりも実施回数が少なくなり、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27～29年度	園芸福祉体験を「今後取り組みたい」という施設増加 4施設	3施設 (H29年)	0施設	4施設	0%	・福祉施設での体験実施	・福祉施設での体験実施	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、R2年度は福祉施設での園芸体験は実施できなかったため、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
岩手県	いわて花と緑の普及協議会	27～29年度	盆・彼岸需要期のりんどう出荷量の増加	3,900万本 (H28年)	4,044万本	4,400万本	92%	・物流の効率化検討・実証 ・フラワーコンテスト等の開催、国産花きの情報発信（輸出）・学校・福祉施設等での花育体験推進	・物流の効率化検討・実証 ・フラワーコンテスト等の開催、国産花きの情報発信（輸出）、学校・福祉施設等での花育体験推進	主力品目であるりんどうは、鮮度保持材を用い、出荷を調整する技術の導入を進めた結果、需要期の出荷量増加につながったが、作付面積の減少が影響し、目標達成には至らなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27～29年度	・地方卸売市場における花き（切り花本数）の取扱量の増加	23,937千本 (H27年)	20,047千本	24,200千本	83%	・フラワーコンテスト等の開催、学校・福祉施設等での花育体験推進	・「いわてフラワーデー」等の各種イベントや情報発信	各種イベントや情報発信を通じ、県産花きの認知度向上が図られたが、切り花の市場経由率が低下や新型コロナウイルス感染症の影響により、取扱量は減少した。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27～29年度	・県庁所在地における花き（切り花本数）の購入金額の増加	11,174円 (H28年)	10,018円	11,300円	89%	・フラワーコンテスト等の開催、学校・福祉施設等での花育体験推進	・「いわてフラワーデー」等の各種イベントや情報発信	平成29年の購入金額（総務省家計調査）9,632円に対し、平成30年は10,018円と上昇したが、新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27～29年度	・輸出する切り花本数の増加（八幡平市）	香港 2.0万本 (H28年)	香港 0.0万本	香港 2.2万本	0%	・花文化と併せた国産花きの情報発信	・海外でのプロモーション活動等	香港向けの輸出量は新型コロナウイルス感染症の影響により輸出自体を見合わせたため、目標達成には至らなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。

宮城県	宮城県花と緑普及促進協議会	27～28年度	宮城県産花き生産数量をH24実績より増加	45,969千本・千鉢 (H24年)	36,288千本・千鉢	48,267千本・千鉢	75%	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーコンテストを通じた生産技術の向上や花文化展示会、花育活動の開催を通じた県産花きの知名度向上や需要拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会議の開催（6回） ・花き品評会の開催（10月開催出品点数101点） ・学校、福祉施設での花育体験教室を実施（6件） ・バスツアーの実施（中止）等 	<p>イベントの実施により、消費者に対し県産花きの認知度向上や花文化の浸透が図られ、花き品評会の開催等により、生産者の生産意欲向上と消費者の県産花きへの理解促進が図られた。</p> <p>達成率75%であるが、27年産、28年産は目標値にほぼ達しており一定の成果はあったと考えられる。その後は、生産規模の縮小、また、R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により花きの需要が減少したため、目標値に達しなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。</p>
		27～29年度	宮城県産花き産出額をH27実績より増加	3,109,223千円 (H27年)	2,559,456千円	3,420,146千円	75%	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーコンテストを通じた生産技術の向上や花文化展示会、花育活動の開催を通じた県産花きの知名度向上や需要拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会議の開催（6回） ・花き品評会の開催（10月開催出品点数101点） ・学校、福祉施設での花育体験教室を実施（6件） ・バスツアーの実施（中止）等 	<p>イベントの実施により、消費者に対し県産花きの認知度向上や花文化の浸透が図られた。花き品評会の開催等により、生産者の生産意欲向上と消費者の県産花きへの理解促進が図られた。花壇用苗物類の産出額について増加（119%）したものの、切り花類、鉢物類の減少が大きく、また、R2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により花きの需要が減少したため、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。</p>
		27～29年度	仙台市中央卸売市場における花き取扱金額をH27実績より増加	9,491,582千円 (H27年)	7,828,866千円	9,776,330千円	80%	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーコンテストを通じた生産技術の向上や花文化展示会、花育活動の開催を通じた県産花きの知名度向上や需要拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会議の開催（6回） ・花き品評会の開催（10月開催出品点数101点） ・学校、福祉施設での花育体験教室を実施（6件） ・バスツアーの実施（中止）等 	<p>イベントの実施により、消費者に対し県産花きの認知度向上や花文化の浸透が図られ、花き品評会の開催等により、生産者の生産意欲向上と消費者の県産花きへの理解促進が図られた。宮城県産花きの取り扱い額はH30年比でR2年度も同等の割合を維持しているものの、市場全体の取り扱い額は減少傾向にあり、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。</p>
秋田県	秋田県花きイノベーション推進協議会	27～29年度	キク類、リンドウ、トルコギキョウ、ユリ類、ダリアの全農あきたの系統販売額の増加	16.8億円 (H27年)	17.9億円	20.5億円	87%	<ul style="list-style-type: none"> ・花き技術研修会の開催、ダリアリレー出荷状況調査等 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県と連携したダリアリレー出荷の実施 	<p>ダリアリレー出荷では、夏秋期中心の秋田県と冬春期中心の宮城県との連携により、平成29年から開始され、両県の技術交流による高品質ダリアの首都圏出荷につながった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、重点品目のうち冠婚葬祭で使用されるユリ類やダリアの需要が特に減少したため、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。</p>
		27～29年度	県産花きの輸出本数の増加	1,188本 (H27年)	780本	5,000本	16%	<ul style="list-style-type: none"> ・NAMA HAGEダリア（秋田県オリジナル品種）の輸出可能性調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ、香港向けの輸出試験及びダリアプロモーションの実施 	<p>検疫のない香港を対象としたことで、生産者を限定することなく輸出に対応することができるようになり、平成28年12月から香港への定期輸出を確立し輸出本数は増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により航空便が減便したため定期便が組めず、大幅に輸出量が減少したため、目標値には達しなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。</p>
		27～29年度	一世帯当たりの花き購入金額の増加	切り花9,539円 園芸用植物3,349円 園芸用品4,253円 (H27年)	切り花9,727円 園芸用植物3,448円 園芸用品3,691円	切り花9,825円 園芸用植物3,449円 園芸用品4,381円	切り花99% 園芸用植物99% 園芸用品84%	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーコンテスト等の開催、親子寄せ植え体験、フラワーアレンジメント体験、小学校での一花一葉花育講座の実施等 	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーコンテスト等の開催、親子寄せ植え体験、フラワーアレンジメント体験、小学校での一花一葉花育講座の実施等 	<p>花育体験等により児童・保護者を含めた若い世代へ花文化のPRを行うことができ、また新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の動きに後押しされ園芸用品等の購入金額が大幅に増加したが、成果目標の達成には至らなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。</p>

山形県	山形県花き生産連絡協議会	27～29年度	山形県花き産出額の増加	68億円 (H27年)	69億円	75億円	92%	・生産技術向上支援、物流の効率化の検討・実証、花き品評会等の開催、学校等での花育体験	・生産技術向上支援、物流の効率化の検討・実証、花き品評会等の開催、学校等での花育体験	品質向上や輸送の日持ち性向上実証や、研修会・主力品種の展示会による消費拡大のPRを行い、令和2年は平成27年に比べて花き産出額は増加傾向にあるものの、目標には至らなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		29年度	山形生花地方卸売市場取扱数量の増加	22,000千本 (H27年)	17,420千本	24,200千本	72%	・生産技術向上支援、花き品評会等の開催、学校等での花育体験	・生産技術向上支援、物流の効率化の検討・実証、花き品評会等の開催、学校等での花育体験	品評会や展示会、花育体験の取組みにより、消費者が花に触れる機会が増え、花育体験の参加者の中には体験後に花の購入頻度が増加した人もいたが、山形生花地方卸売市場における花きの取扱数量は減少傾向にあり、令和2年も目標に達成しなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27～29年度	一世帯当たり切り花年間購入額の増加	11,865円 (H27年)	10,221円	12,500円	82%	・フラワーコンテスト、花文化展示会等の開催、学校等での花育体験	・生産技術向上支援、物流の効率化の検討・実証、花き品評会等の開催、学校等での花育体験	品評会や展示会、花育体験の取組みにより、消費者が花に触れる機会が増え、花育体験の参加者の中には体験後に花の購入頻度が増加した人もいたが、山形生花地方卸売市場における花きの取扱数量は減少傾向にあり、令和2年も目標に達成しなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		29年度	花育を体験した保護者の花き類の購入頻度の現状把握と体験後の購入頻度の増加1回以上	— (H29年)	0.8回	1回以上	80%	・学校等での花育体験	・学校等での花育体験	地元の花や季節の花を取り入れた花育体験を通じて、参加者の花に対する興味・関心が高まり、花き購入頻度の増加につながったものの、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
福島県	福島県花き振興協議会	27～29年度	福島県の花き主要品目（りんどう）の出荷数量の3%増加	4,035千本 (H27年)	2,206千本	4,156千本	53%	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験等	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験 県単独事業におけるリンドウの種苗導入支援	高齢化の影響による廃作が進み、作付面積、出荷数量ともに減少し、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27～29年度	福島県の花き主要品目（りんどう）の販売金額の10%増加	113,421千円 (H28年)	87,673千円	124,764千円	70%	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験 県単独事業におけるリンドウの種苗導入支援	高齢化の影響による廃作が進み、作付面積、出荷数量ともに減少し、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27～29年度	福島市における1世帯当たり年間の切花支出金額の1%増加	18,063円 (H27年)	16,275円	18,244円	89%	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験	フラワーコンテストや花文化展示会により、花き消費の拡大を図ったこと等により、全国1位の切花支出金額となったものの、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
		27～29年度	福島市における100世帯当たりの切花購入頻度1%増加	1,139回 (H27年)	1,126回	1,150回	98%	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験	フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催、学校等での花育体験	切り花購入頻度は全国平均では10%ほど減少している中で、ほぼ横ばいで推移し、花育体験の追跡アンケートでは保護者の13%が購入機会が増えたと回答しており、一定の成果はあったと考えられるが、成果目標は達成されなかった。このため、再度成果目標の達成に向けた改善計画書の提出を求め、必要な指導を行うこととする。
秋田県	株式会社みづき	28～29年度	コールドチェーン輸送実証（温度上昇幅5度以内）	—	4.8度	5度	104%	パーフェクトコールドチェーンを構築するため、生産地集出荷場及び卸売市場内等の保冷体制・環境及び輸送体制を構築	・輸送ルートにおける温度上昇地点の把握、対策	成果目標は達成しており、改善計画の取組の成果が認められる。